

《どうでもいい話、その 559》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

季節も変わり夏になります。夏になると蚊が出てきて、最初は弱くて刺しませんが、だんだんブーンと音を出し強くなります。数ある昆虫の中で、名前が一音というのは蚊と蛾だけで、人間にとって加害者です。蚊の名前の由来は、刺されると大抵の人はカッとなるので、そこからきたと蚊学者は蚊説としています。なお蚊一音説はもうひとつあり、昔の人は今の様に蚊取りマットとか殺虫剤がなかったので、蚊の防戦に忙しく、いちいち長い名前を言っていられなかったという説です。蚊に刺された人は「この、蚊ん畜生め！」と言って刺されたところを叩きます。叩いているうちに、また別のところを刺されます。この時に蚊の名前が長い名前だったら、例えば「るりかたびろすろやえつつつきこむし」だったら、刺されるたびに「この、るりかたびろすろやえつつつきこむしめ！」と言い続けなければならない、舌はもつれるし、声もかすれてきます。これを避けるためだった、という説ですが信ぴょう性は ない蚊！

岩波より